

リンゴ褐斑病菌子のう胞子の飛散時期と防除適期

福島県果樹試験場病理昆虫部
平成16年度試験研究成績書

1 部門名

果樹-リンゴ-病害虫発生
分類コード 04-01-23000000

2 担当者

菅野英二・尾形 正

3 要旨

本県におけるリンゴ褐斑病の発生生態と防除適期を解明するため、本病菌子のう胞子の飛散時期を調査するとともに、リンゴの開花期から9月までの殺菌剤の散布回数および散布時期の違いが、本病発生に及ぼす影響を検討した。

- (1) 本病菌子のう胞子は、4月19日から7月16日の降雨日に多数飛散し、特に5月下旬から6月上旬に多かった。このことは過去の調査結果とほぼ一致した。
- (2) 新梢葉については、5月28日以降殺菌剤を散布しなかった区で本病の発生が多く、5月28日および6月14日に散布した区では発生が少なかった。また、初発を確認した7月1日以前、いわゆる一次感染期の散布回数が少ない区ほど9月の発生は多かった。一方、初発直前の6月30日以降、いわゆる二次感染期に散布した区では発生は認められたが、急激な増加はなく経過した。果実については、9月に樹上の新梢葉における発生が多い区ほど果実での発生が多く、新梢葉での発生が増加する区ほど果実の発病程度は重かった。また、二次感染期に散布した区では、果実発病が極端に少なかった。
- (3) 以上の結果から、2004年の子のう胞子の飛散ピークは5月下旬から6月上旬に出現し、この時期の新梢葉に対する防除効果が高かったことから、新梢葉に対しては子のう胞子の飛散盛期が防除適期であると考えられた。また、一次感染期の防除圧が高いほど防除効果は高いが、二次感染期の防除でもある程度の発病抑制は可能と思われた。一方、果実の感染時期は9月頃で、この頃の樹上における発病葉数および増加率が果実発病に影響していることから、果実の防除時期は二次感染期であると考えられた。

4 その他の資料等

なし